

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

にんげんばんじさいおうがうま
「人間万事塞翁が馬」

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言われるように、三学期はあわただしく月日が過ぎ去っていきます。新しい年 2018 年の幕開けから早いもので 2 月に入りました。3 日の「節分」、4 日の「立春」も過ぎ、暦の上では春ですが、まだまだ厳しい寒さが続いています。風邪やインフルエンザにかからないように、手洗い、うがい、十分な睡眠など自分の健康管理をしっかりと行ってください。明日はコーラスコンクールの本番です。これまで、音楽の時間やクラスでしっかり練習を重ねてきました。目標として努力してきた「学級の団結」の姿と「心の響きあう歌声」を披露してくれることを願っています。

全校集会でも話をしましたが、「人間万事塞翁が馬」は中国の古典に由来する言葉である「故事成語」の一つです。人間を「じんかん」と読む場合もあり、世間という意味で使われます。略して「塞翁が馬」ということもあります。「塞」は要塞の「塞」で、砦（とりで）という意味で、「翁」は老人という意味です。ご存知の方も多いと思いますが、つぎのような故事です。

昔、中国北方の砦に老人が住んでいました。その老人は、素晴らしい名馬を飼っていましたが、ある時その名馬が逃げてしまいます。人々が慰めに行くと、老人は全く悲しんでいる様子もなく、「そのうち良いこともあるでしょう」と平気な顔で言いました。

数か月後、逃げた馬は立派な馬を連れて帰ってきました。人々がお祝いに行くと、老人は「いや、このことがわざわざいになるかもしれない」と一向に喜んでいません。

しばらくして、その馬に乗っていた老人の息子が落馬し、足を骨折してしまいます。人々が見舞いに行くと「いや、このことが福となるかも」という返事です。しばらくすると、隣国と戦乱になりましたが、息子は足の負傷のため兵役を免れ命が助かりました。

「不幸（災い）」と思えることが、後に「幸い」となることもあり、またその逆もあるというたとえです。人生における幸せや不幸は予測しがたい、良い事もあれば悪い事もあるということです。私自身、今までの自分の歩んできた生活を振り返るとこの故事のようなことが何度かあったように思います。先のことはわからないので、今うまくいなくても良い方向に行くことだってあります。逆にラッキーなことがあっても次はどうなるかわかりません。油断せず努力を続けたいといけなんでしょう。

入試の合否結果、テストの成績をはじめ、これからの長い人生でいろいろな試練が待ち受けています。その時、大切なことは、**自分の心の持ちよう**ではないでしょうか。「もう自分はダメだ」と投げ出すことなく、「人間万事塞翁が馬。これからもっと良い事があるかもしれないから、頑張ってやり直してみよう」と立ち向かって行って欲しいものです。

平昌オリンピックがいよいよ開幕です。楽しみですね。約 2 週間、世界のトップアスリートたちが多くの感動を与えてくれるでしょう。オリンピックに出場する一人一人の選手には、人知れず数々の苦難があったことと思います。苦難を乗り越え、晴れ舞台で大活躍をする選手が多く出ることを期待しています。